ハート・オブ・ゴールド 通信

vol.40

2019 年 1 月 15 日 発行

発行 / 編集　ハート・オブ・ゴールド事務局
本部　〒 701-1213　岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org

URL : http://www.hofg.org/

設立 20 周年を迎えて

代表理事　有森　裕子

20 年 … 長かったのか、短かったのか？ 時間だけで考えると、長かった。しかし、一つひとつの活動を形にするには短いのかもしれない。スポーツだからこそできる「人の内なる生きる力を育む」ソフトの支援、人材育成に力を注いできた。

当時、スポーツを通じた開発には世界的にもほとんど関心が持たれていなかった。カンボジアもスポーツどころではなかった。そんな中、毎年、アンコールワット国際ハーフマラソンや青少年スポーツ大会を経験することで、子ども達にフェアープレイ、協力する楽しみ、がんばる心などが育まれていくのが見え、カンボジア教育省が体育科教育の実施を強く願うようになった。

活動の中で困難に直面したときは、相手と向き合ってとことん話し合った。対話を大事に、決して諦めないで続けたことが、人を変え、自分を変えていった。そして何よりも、現地の子どもや人々の「生きる力と成長」を感じられたこと、また、支援してもらう人も支援する人も共に成長していると感じられることが支えになった。スポーツを通して、心身の健康を育み、希望を持って起き上がるチャンスをつかむ手助けとなるような活動を今後も広げていきたい。

【JICA 草の根技術協力事業】

「カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクト」指導書完成間近！

プロジェクト・マネージャー　西山　直樹

2017 年 1 月から始まった事業も佳境に入ってきました。カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）の技術委員会メンバー（以下、TC）から提出された中学 1 ～ 3 年生のドラフトの内容を改善するために、ワークショップを重ね、多くの課題を解決しながら、指導書がいよいよ完成に近づいています。

事業計画ではドラフト提出の締め切りは 2018 年 8 月末でしたが、TC 達は総選挙で忙しく、提出されたのは 9 月中旬、急いで HG スタッフが翻訳し、確認作業を始められたのは 10 月に入ってからでした。7 領域・20 種目もあるので、確認にはかなり時間がかかります。しかも、各領域・種目を担当する TC によって書き方や表現の仕方が異なっている部分を統一する必要があり、ワークショップを開いて、用語、分量、イラストの入れ方等、共通理解を図りながら、全体の一貫性を高めていきました。

10 月にバッタンバン州とスヴァイリエン州で、11 月にプノンペン市で、ドラフトを中学校の教員に読んでもらい、読みやすいかどうか、年間計画・単元計画・指導案を実際に作成できるかどうかを確かめるワークショップを実施しました。その中で特にうれしかった出来事が 2 つありました。

1 つはバッタンバン州で、州教育局の課長が 3 日間の全ワークショップに参加し、教員と一緒に年間計画等を作成していたことです。小学校事業では、州や郡の教育局担当官は、ワークショップの準備だけして参加はしないのが通常でした。今回、その意識が変わったのは、バッタンバン州では、今年から自ら予算を確保しワークショップを実施するようになったため、自分達も体育を理解していなければいけないと考えたからではないかと思います。

もう一つはプノンペン市でのワークショップです。教員達はワークショップの始めに渡された 3 冊の分厚い指導書ドラフトに圧倒されて途方に暮れていました。そこで、指導書のどこを読み、どのように書けば

よいのかを丁寧に説明していったところ、3 日目に表情が一変し、積極的に指導案を書き始めたのです。自分達が「知っている」「分かる」ことで、他の教員にも教えられるようになり、これから体育を教えるのが楽しみになったと言っていました。終了翌日に年間計画・単元計画・指導案を作成する教員が出て来るなど、指導書の使い方が明確に理解され、しっかりと活用されるための準備ができたと感じました。

指導書は、1 月中に完成させ、2 月の教育省からの認定をめざしています。指導書がカンボジア全土の教員に配布され、それを教員達が理解し教えることによって、全国の子ども達が新しい体育の授業を受けられるようになるまでにはまだまだ時間がかかりますが、関係者一丸となって普及を進めて参ります。

カンボジアの体育教育に全力投球の日々

プロジェクト・マネージャー　**西山　直樹**

写真提供：石川正頼／JICA

2012 年 4 月に赴任して初めての仕事は、JICA 草の根技術協力・小学校体育科教育普及事業・第 3 フェーズの申請書を書くことでした。それから 7 年足らずの間に、Sport for Tomorrow での中学校体育科学習指導要領の作成支援、JICA 草の根技術協力事業で実施中の中学校体育科指導書作成支援、カンボジア教育省の独自予算による高校体育科指導書作成のための本邦研修の調整・同行、さらに中学・高校の体育科教員養成のための国立体育・スポーツ研究所 (NIPES) の 4 年制大学化事業の準備と、事業はより幅を広げより深化してきました

この間、最も苦労したのは人材育成でした。そもそも私より 20 歳ほど年上である教育省の方たちに何かを教えるということはとても難しいことでしたし、私は元々体育が専門ではなかったので一から勉強しなくてはなりませんでした。そのため、専門家が来られた時にはわからないことはわかるまでとことん聞くようにしましたが、現場を預かるプロジェクト・マネージャーとして、日本の体育の専門知識が本当にカンボジアに適しているのかどうかを判断するのは大きな責任を感じます。現在、中学校体育科の指導書を作成していますが、教育省の担当者が書いてきたドラフトを確認して修正する過程で、それが果たしてその担当者が作成したものと言えるのか、私が押し付けているものではないのかと悩むことがあります。それで、まず彼らから説明してもらい、理解できなければ、何度も質問します。具体的な状況で実際に体育の授業が実施可能かどうかを確認し、納得できれば、私が考えていたものと違っていても受け入れるようにしています。ありがたいことに、激論を交わしても関係が壊れずに続けられているのは、対話を大事にして信頼関係をゆっくり築いてきたからだと思います。

こうした苦労を重ねた結果、体育の授業を受けた子ども達が、教育の目的である「態度・知識・技能・協調性」を学べていると感じるときが一番うれしい瞬間です。これまでは、単調な徒手体操を、あまり笑顔や真剣さがないままやっていた子ども達が、サッカーや陸上、器械体操等を楽しそうにしていたり、自分の記録に真剣にチャレンジしたり、友だちと助け合って準備や試合をしている姿を実際に見ることはもちろん、Facebook で見るだけでも、教育省と一緒に築いてきたものが実を結んでいることを感じることができます。カンボジア全国に新しい体育を普及するという壮大な目標に向かって、教育省が自力でできるところを一歩ずつ歩んでいけるよう、私達がサポートできるところに取り組んでいきたいと思います。

高校体育の本邦研修

プロジェクト・オフィサー　**ケオ・ソチェトラ**

カンボジア教育省は、2020 年までに教員養成校や小・中・高の学習指導要領、指導書、教科書などを改訂するため、2017 年にそれらの改訂委員会を設立しました。委員会は、2018 年に学習指導要領を、2019 年に指導書を、そして 2020 年に教科書を作成する計画です。改訂委員会の中に各教科のサブ委員会が作られていて、体育科のサブ委員会もあります。小学校体育は、学習指導要領と指導書が 2006 ～ 2016 年のハート・オブ・ゴールド（HG）との JICA 草の根技術協力事業で完成しました。中学校体育も、HG との Sport for Tommorrow 事業で作成された学習指導要領が 2016 年 12 月に国から認定され、引き続き、JICA 草の根技術協力事業で指導書の作成支援を行っています。高校体育は、2018 年に教育省が初めて独自予算で学習指導要領を作成しました。学校体育・スポーツ局の年間計画によると、続いて 2019 年に指導書を作成することになっていますが、具体的なイメージが持てないため、小・中の体育の開発を一緒に実施してきた HG に、日本での研修依頼がありました。

研修は 2018 年 10 月 23 日から 30 日までの 8 日間行われ、文部科学省の担当官や日本体育大学の岡出美則教授、桐蔭横浜大学の佐藤豊教授の講義を受け、ワークショップをし、2 つの高校を見学しました。

参加した教育省の担当官 7 名は、体育を通じて「態度・知識・技能」をどのように教えるのか、実際に現場では体育の授業をどのように行っているのか、また、教員養成システム確立の必要性等について学びました。種目の選択についても、日本では中学 3 年から導入されていますが、カンボジアの高校では体育教員の不足等の問題があって難しいことや、小・中・高全体として考えた時に、子ども達がどのような流れで体育を学習すれば、カンボジアの教育の目標である「持てる可能性を最大限に活かせる国民」を育成していけるのかを考える良い機会となりました。引き続き、体育科のサブ委員会として、今回学んだことを元に、カンボジアの高校体育の指導書作成を支援していきたいと思います。

車いす陸上トレーニンングワークショップ

プロジェクト・アシスタント　**米山　遥香**

2018 年 12 月 3 ～ 5 日に、車いす陸上のパラリンピアン、松永仁志選手兼監督（グロップサンセリテ WORLD-AC）をカンボジアに招聘し、車いす陸上選手、コーチ、カンボジアパラリンピック委員会を対象とするワークショップを開催しました。

競技場でのトレーニングに加え、トレーニングスケジュールの組み方や目標設定、レーサーのメンテナンス等の座学もしました。トレーニングではまずウォーミングアップをした後、各選手のフォームをチェック、体の使い方、タイヤの回し方のコツや、選手とコーチから要望のあったスタートの仕方も一人ひとり見て下さりアドバイスをいただきました。カンボジア選手のポテンシャルは高く強くなりたいという意思があるので、目標をきちんと設定して練習に励めばさらに上を目指すことができると激励されました。また、部品がなかなか手に入らない中で選手が工夫して修理している様子に驚かれましたが、メンテナンスを怠らなければ使い続けることが可能とのことでした。

5 名の選手のうち 2 名は昨年 11 月に岡山でのパラキャンプで松永氏の指導を受けていましたが、松永氏が指導したことをしっかりと修正していて良くなっているとのうれしいコメント。その一人であるヴァン・ヴォン選手は 2020 年東京パラリンピック出場と、2023 年カンボジアで開催されるアセアンパラゲームでの金メダルを目標に、松永氏から教わったことを実践し、強い選手になれるようにしっかりと練習に励んでいきたいと決意していました。

3 日間と短かったですが、とても内容の濃いワークショップでした。パラリンピアンから直接指導を受けられるということで、カンボジアの選手は目をキラキラ輝かせて取り組んでいました。このワークショップで学んだことを、しっかりとフォローアップできるよう、支援を続けていきたいと思います。

中学校で初めての水泳授業

プロジェクト・マネージャー　**西山　直樹**

2018 年 7 月 20 日にカンボジアの現在の学習指導要領に沿った初めての水泳の授業が実施されました。プノンペン市のボントラバエク中学校が行ったもので、海外青年協力隊員として同校に派遣されている井上大地さんと、同じくカンボジア水泳連盟に配属されている本田ふみのさんが調整をし、オリンピックスタジアムのプールにおいて実施されました。生徒達は公共バスで来たので費用もかかりませんでした。

学習指導要領では水泳は選択制ですが、実施は難しいと考えられていました。今回、水泳の授業が実現したことにより、他の学校でもできることの証明になり、今後の実施が期待される事例となりました。まだ第一歩ですが、実際に指導要領に書かれていることが生徒達に教えられているところを見て感動しました。

ソパルさんへの追悼

ケオ・ソチェトラ

カンボジア教育省・学校体育スポーツ局の小学校課副課長ミヴ・ソパルさんには子どもが 4 人います。長女と長男と次男です。もう一人はまだ奥さんのお腹の中にいます。12 月に生まれる予定です。

2018 年 8 月 15 日午前 10 時に原因不明の病気で亡くなりました。

2006 年から 10 年以上、プロジェクトメンバーとして小学校体育の発展に貢献してきました。州の教育局の人達や小学校の校長先生と交渉したり、小学校の先生を育成したり、一緒に色々経験してきました。事業では、楽しいこともありましたが、頭に来ることもありました。でも、カンボジアの小学校の子ども達のために、ソパルさんは我慢してニコニコしていました。ここまで一緒に頑張ってきたソパルさんが亡くなったことは、教育省とハート・オブ・ゴールドにとって、とても残念です。ソパルさんのご冥福を心よりお祈りします。

ニューチャイルドケアセンター（NCCC）

シニア・アドバイザー　**村上貴美子**

現在、5 歳～高 3 の 16 名（男 6、女 10）が、家庭的な雰囲気の中でのびのびと生活しています。うち 1 名は岡山学芸館高校に留学中です。

2018 年の後半は、次のようなことがありました。

10/8-10 のプチュンバン（盂蘭盆会）をはさんで、今年 2 回目の「里帰り」を行いました。

新学期が始まったばかりの 11/21-23 は水祭りで、みんなでシェムリアップ川のボートレースを観戦しました。

今期は多くの方々がご訪問くださいました。8/19、岡山学芸館高校ＳＧＨがトンレサップ湖の水質検査を行うとのことでしたので、水の大切さを子ども達に理解してもらうため、NCCC の水質検査をしてもらいました。8/29、神戸学院大学の学生さん達と「シャボン玉」遊びをしました。9/13、名桜大学の学生さん達が大縄跳びの縄を持ってきてくださり、子ども達は初めて、大縄跳びをしました。9/19、島根大学の学生さんが紙芝居をしてくださり、子ども達の希望で覚えたての大縄跳びもしました。ご同行の社会福祉法人報恩母の家の院長さんと前理事長さんがスタッフに日本の養護施設の現状を話してくださり、良い勉強になりました。

11/3-6、社会福祉法人悲田院の職員がご訪問、「迷路の絵本」をいただき、子ども達は早速挑戦しました。中高生には、介護福祉士の業務について説明をしてくださり、目前に迫った進路を考えるうえで参考になりました。

11/8、６23 塾の塾長さん達が折り紙を教えてくれました。チェイ小学校にも行かれました。

12/16、岡山学芸館高校ＳＧＨが、12/18、岡山学芸館高校の皆様が、ご訪問くださいます。

ハート・オブ・ゴールドが 20 周年を迎え、ＮＣＣＣでも新しい動きが始まった感がします。将来、子ども達が一人の社会人として自立した生活が送れるよう、さらに私どもスタッフ一同努力をしていく所存です。いつもながらの温かいご支援に感謝しながら、今後ともよろしくお願いいたします。

シェムリアップ日本語教室

京都民際日本語学校所属 HG 日本語教師　**渡邊　格**

BBU 大学　日本語講座

BBU 大学外国語センター内に開講した日本語講座は 4 年目に入りました。日本人教師 1 名と、チェイ小学校 HG 日本語教室の卒業生であるカン・ナモイとコル・ソティアラの計 3 名が教壇に立っています。授業時間は 1 時間か 1 時間半で、現在は 5 クラスを開講し、BBU の学生だけでなく、他大学の学生や高校生も学んでいます。日本文化に馴染んでもらうため、授業中に日本の歌やテレビ番組、折り紙なども紹介しています。

チェイ小学校 HG 日本語教室

2000 年 9 月に近隣の人たちからの要望で開講。教室棟を新築し、たくさんの児童が学んできました。その中で、2007 年から 2018 年まで、10 名が岡山学芸館高校に留学。現在、3 名が HG スタッフとして働いています。かつての日本語熱は収まって近年は英語と中国語の爆発的な需要の高まりの影響を受けて、保護者は子ども達に英語や中国語を習わせようとしており、日本語の学習者が減ってきています。チェイ小学校でもその傾向が見られ、現在、受講者数は減り気味ではあるが、チェイ小学校と相談しながら方策を探っています。

ロン・スライニットの留学便り

岡山学芸館高校に留学して 3 カ月が過ぎました。寮での生活とクラスでの勉強にも段々慣れてきました。先生と皆が親切にいろいろなことを教えてくれます。友達もたくさんできました。9 月には体育祭と文化祭に参加しました。部活動は和太鼓部と華道部に入りました。和太鼓部のイベントに 2 回出ました。まだあまり上手にたたけないので、どきどきしました。10 月にはインターアクトクラブのお手伝いをし、カンボジアカレーを作って売りました。11 月には留学生で後楽園と岡山城へ行きました。岡山城の上まで上がり着物を着ました。前から着物を着てみたいと思っていたのでとてもうれしかったです。岡山城で先生が日本の歴史について紹介してくれました。日本の文化をもっと知りたいと思いました。11 月から日本語の勉強時間が増えました。ガイド､通訳、留学など、夢が広がっているので、日本語の力が必要です。だから私はがんばります。

アンコールワット国際ハーフマラソンと障がい者ランナー支援

プロジェクト・アシスタント　**米山　遥香**

第23回大会となる本年は、78カ国・地域から10,500人(外国人4,613人、カンボジア人5,887人）が参加しました。昨年に引き続き、外国人よりもカンボジア人の参加数が多く、カンボジア人にとってマラソンという文化が根付いてきている証として大変うれしく思います。

カンボジア障がい者陸上連盟（CDAF）からは約40名が参加しました。姉妹マラソンであるかすみがうらマラソンに今回も有森賞として優秀な成績を収めた2名の障がい者ランナーを招待します。その他の障がい者支援団体からの参加を加えると総勢約70名になり、年々、障がい者の参加は増えてきています。これからも子どもと障がい者のためのチャリティーマラソン大会として継続していって欲しいと思います。

チェイ小学校まつり―ミニ運動会―

HG東南アジア事務所副所長　**手束　耕治**

NCCCの子ども達も通っているチェイ小学校とハート・オブ・ゴールド（HG）は、1998年よりスタディツアーや教材・スポーツ用具などの支援、日本語教室開設、歯科検診などで交流を深めてきました。HG設立20周年の今年は、スタディツアーの皆さまを招いて「チェイ小学校まつり」と銘打って、初めての運動会を開催しました。

11月30日の開催当日は、午前・午後の2部制のうち午前部に通う幼稚園児から小学6年生までの児童約400人と、教員、保護者、ツアー参加者が、学年ごとに4組（赤、青、緑、黄）に分かれて競技の得点を競いました。

開会式の後、最初は幼稚園の「障害物競走」。2つの椅子の間に張ったひもを潜り、カラーコーンの間をジグザグ走り。1年生は「シュートゲーム」。カラーコーンのゴールにシュート！2年生は「玉入れ」。3年生は「綱渡り」。綱代わりにレンガ上に渡した細い板の上をバランスよく渡ります。4年生は向き合ってトスとキャッチの回数を競う「バレーボールトス」。5年生は4組総当りの「綱引き」。6年生の「バトンリレー競争」ではショートカットをするルール違反があり、有森代表から「スポーツはルールを守らないと競技になりません」と注意を受け、やり直し。子ども達はルールの大切さを学びました。フィナーレは全員で「クメールダンス」を踊りました。

閉会式では順位が発表され、学校にボールを贈呈し、全員で記念写真を撮りました。

今回は学校にとって初めての運動会で準備は万全とは言えませんでしたが、日本からの皆さんが、競技だけでなく、ゴールキーパーや球拾い、玉入れのかご持ちなどに参加してくださり、楽しく思い出深い運動会となりました。

カンボジア障がい者スポーツ・シンポジウム

プロジェクト・アシスタント　**米山　遥香**

アンコールワット国際ハーフマラソン（AWHM）スタディツアーの初の試みとして12月1日に開催しました。ツアーの皆様に、ハート・オブ・ゴールド（HG）が障がい者支援を始めたきっかけや、現在実施している障がい者スポーツ事業について、そしてその事業に対する想いをお伝えしようと企画しました。有森代表、車いすランナー、義足ランナー、カンボジア障がい者陸上連盟（CDAF）スタッフ、カンボジアパラリンピック委員会(NPCC)スタッフ、HGスタッフが、スピーカーとして登壇し、AWHMが始まる以前のカンボジアの障がい者の生活、AWHMに参加してから変わったこと、スポーツの意義、インクルーシブな社会の実現に向けてNPCCが目指すもの、HGの活動について、語りました。障がい者ランナーのお母さんが、子どもがスポーツを始めたことで元気になって社会に出ていけるようになったと話して下さり、参加者の胸に残ったようです。

HGは障がい者がスポーツを通じて夢と希望をもって社会に出られるきっかけを作ってきました。今後もより多くの障がい者がスポーツに参加し、自信を持って生活できるよう支援していきたいと思います。

◇第１回親子チャリティマラソン in 軽井沢 おもちゃ王国

６月30日（土）群馬県嬬恋村にて、200名余の親子が参加して、第１回大会が開催されました。心配していたお天気も、前日に関東甲信は梅雨明けし、大快晴！参加者、スタッフともに、笑顔と汗がキラキラ光る一日を過ごしました。この大会の収益は、ハート・オブ・ゴールドがカンボジアで展開している体育科教育事業で、小学校の鉄棒設置支援に充てられます。

◇ TAO 東洋医学 30 周年記念式典

９月29日（土）大阪にてTAO30周年記念式典が盛大に開催されました。TAO誕生から今までの30年の活動を知り、先生方の自己実現のエネルギーのすごさに圧倒されました。その中で有森代表との出会いが何度かあり、スタディツアーでは、HGデンタル班として、カンボジアの子ども達のために歯科検診という大きな働きをしてくださっています。NCCCから留学中のスライニットも参加して、直接お礼の挨拶ができました。

◇ハート・オブ・ゴールド 20 周年記念 支援チャリティーゴルフコンペ

10月23日（火）茨城県でハート・オブ・ゴールド20周年記念　支援チャリティーゴルフコンペが開催され、総勢80名の方がプレーしました。プレー後は、プロゴルファー鈴木規夫様の乾杯により交流会が始まりました。岡山出身の元体操選手森末慎二様の司会進行で、成績発表に続き、景品贈呈とサイレントオークションの発表。そして、ライブオークションには豪華な商品が出品され、会場の盛り上がりは最高潮に。ハート･オブ･ゴールドの記念すべき20周年を祝っていただき、ご参加の皆様、ご提供者の皆様、実行委員の皆様に感謝申し上げます。

◇福武教育文化振興財団 福武哲彦教育賞受賞

2018年度の福武哲彦教育賞に、ハート・オブ・ゴールドが選ばれました。カンボジアにおいて、体育の指導要領や指導書を作成し、体育教育の普及に尽力してきたことと、岡山でもグローバル人材育成の活動を続けてきたことが評価されました。 11月16日に岡山市で贈呈式がありました。

◇ HEROs AWARD 2018 受賞

12月17日（月）日本財団が推進する「HEROs AWARD 2018」の表彰式が都内で行われ、受賞者の一人として有森代表が出席しました。社会貢献活動を展開するアスリート、スポーツ団体を表彰するもので、有森代表は、小・中学校の体育科教育普及事業を始めとしたハート・オブ・ゴールドのカンボジアでの自立・復興支援活動への取り組みが評価されました。
https://www.youtube.cpm/watch?v=6P OgQgLgOJw
（有森代表インタビュー）

深山さん、ありがとうございました

ハート・オブ・ゴールド事務局長　**田代　邦子**

突然の深山さんの旅立ちを知りました。
あなたの声を聞けなくなった。
あなたに会って相談できなくなった。

ハート・オブ・ゴールド（HG）の設立当初から、いえ、それよりも前、1996年第１回アンコールワット国際ハーフマラソン（AWHM）の時から、あなたを頼って、あなたがいてくださりさえすれば、何もかもうまく事が運び、参加したすべての人を一つにまとめ、成功に導いてくださった深山さんを亡くしてしまい、私たちは言葉がありません。

イベントはトラブルだらけです。でも、何があっても前から解っていたように冷静に対応されて、最後はすべてがきちんと終わっていました。

プロの仕事というものを、まぢかで見せてもらいました。

あなたが示してくださった穏やかで、そして信念を曲げない、すべてを許す心は、私たちの中に息づいているでしょうか？　あなたをHGの中に生かして、いつまでもあなたと共に進みたいと心より願っています。

＊事務局からのお知らせとお願い＊

● **HG 会員募集！**　活動に賛同してくださる会員さんを募集しています。ぜひお知り合いの方をお誘いください。

●**ボランティア募集！**　本部事務局では、ボランティアを随時募集しています。簡単な事務作業からイベントのお手伝いなど、ご都合に合わせてご参加いただけます。

●**書き損じ葉書・未使用の切手・クオカード・商品券**を集めています。本部事務局までお送りください。活動のために有効に使わせていただきます。

※ HG は認定 NPO 法人ですので、寄付金は、個人・法人を問わずすべて寄付控除が受けられます。相続または遺贈による寄付には相続税が課税されません。

アセアン体育・スポーツ会議（ACPES）で発表

プロジェクト・マネージャー　**西山　直樹**

2018 年 9 月 25 日にマレーシアで開催された第 4 回アセアン体育・スポーツ会議において、「カンボジアの体育普及のためのテクノロジーの利用」というテーマで、約 200 人の参加者を前に 1 時間程度の事例発表を行いました。本会議での発表のトップバッターでした。

カンボジアのバッタンバン州やシェムリアップ州といった地方でのスマートフォンの普及はまだまだ進んでおらず、教育省の普及策としてスマートフォンやインターネットを利用するには全教員が対応できる状況とは言えないこと、普及のツールとしては利用できるものの、唯一の手段とするのは難しいこと等を発表しました。

会議にはタイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、インドネシア等のアセアン諸国だけでなく、デンマークや韓国、日本からも参加しており、各国の体育やスポーツの事情を知ることはもちろん、ネットワークが構築できたことは大変有意義でした。また、アセアン諸国の中でも先進国が中心となって開催されたこの会議で、カンボジアにおける体育の事例を紹介できたことは、全アセアン諸国が体育・スポーツの情報を共有していくという点において大きな一歩だったと感じています。

今後は、カンボジアの教育省が自ら参加し、カンボジア人として自国の体育の状況を発表できるようになること、そしてアセアン諸国の中でも参加が叶っていないブルネイやラオス、ミャンマーといった国々が参加できるきっかけになってくれればよいと思います。

主な活動報告（2018 年後半）

7/30　HG 福島総会
8/15　7.7 西日本豪雨災害支援　真備町訪問
8/16　7.7 西日本豪雨災害支援　総社市訪問
8/27-2019/8　スライニット岡山学芸館高校に留学
8/29　神戸学院大学スタディツアー NCCC 受入れ
9/1　HG 長岡総会
9/3-11/29　ヴィンダー Local to Local 研修（岡山）
9/9　親子チャリティマラソン in おもちゃ王国（岡山）
9/17　チャリティリレーマラソン in そうじゃ（総社）
9/19　島根大学スタディツアー NCCC 受入れ（シェムリアップ）
9/25-26　第 4 回 ACPES にて 西山所長発表（マレーシア）
9/29　TAO30 周年記念式典にて代表講演 (大阪)
10/23　HG20 周年記念支援チャリティゴルフコンペ (茨城)
11/13　ラジオ体操 90 周年講演会（大阪）
11/13　倉敷平成ライオンズクラブ例会（岡山）
11/16　栄光スポーツシューズ贈呈式（岡山）
11/16　福武哲彦教育賞授賞式（岡山）
11/29-12/3　HG スタディツアー（シェムリアップ）
12/2　アンコールワット国際ハーフマラソン（シェムリアップ）
12/3-5 パラ陸上強化ワークショップ（プノンペン）
12/7　カンボジア体育教育支援物資贈呈式（岡山）
12/8　岡山学芸館高校 SGH、NCCC 研修受入れ
12/9　奈良マラソン（奈良）
12/17　HEROs AWARD 2018 授賞式（東京）
12/22　AED 講習会（岡山）
12/23　山陽女子ロードレース（岡山）
12/27　日本 NGO 提携無償資金協力贈与契約署名式（プノンペン）

主な活動予定（2019 年前半）変更あり

1/21　ラジオ体操 90 周年講演会（東京）
2/24　そうじゃ吉備路マラソン（岡山）
3/24　淀川国際ハーフマラソン（大阪）
　　HG 西日本会員交流会
4/14　かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン（茨城）
　　HG 東日本会員交流会
5 月　アニモ・チャリティバザー（岡山）
6 月　アニモの会（岡山）
6 月　HG 総会・理事会・会員交流会（岡山）

平成 30 年度 岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業

HG 東南アジア事務所のソック・ヴィンダーが、9 月から 11 月末までの 3 カ月間、岡山で「障害者スポーツ支援」の研修を受けました。

主な研修受入機関：岡山大学教育学部附属特別支援学校、岡山県立岡山支援学校、社会福祉法人旭川荘、グロップサンセリテ・ワールド AC、岡山県障害者スポーツ協会、岡山市障害者体育センター、国立吉備高原職業リハビリテーションセンター、岡山大学教育学部

ソック・ヴィンダーより

今回いろいろな特別支援学校や施設で研修を受け、障がいのタイプによってどんな支援ができるのかを学びました。また、障がい者スポーツを体験し、やり方やルールや道具などを変えるだけで、障がいを持つ人が健常者と同じようにスポーツすることができることがわかりました。自分の知らないことをたくさん学ぶことができ、岡山県、岡山市、受け入れて下さった団体、施設、HG スタッフなど、たくさんの人たちに心から感謝を伝えたいです。最後の頃は、親切にして下さった皆さまと別れることを思うと、涙が出てきて、とてもつらかったです。カンボジアに戻ってから学んだことを障がい者のために役立てられるよう広げたいと決心しました。障がい者の人たちに喜んでもらえるよう、もっともっとがんばります。

7.7 西日本豪雨 災害支援

倉敷市真備町と総社市の避難所で子ども達とスイカ割り

8月15日､真備町にある薗小学校、岡田小学校、二万小学校の各避難所を訪問しました。真備町は小田川の堤防が決壊して町の広範囲が浸水し、一時8000人以上が避難を余儀なくされた地区です。1カ月以上たって水は引いていましたが、家財道具が流された家や水に浸かって住めなくなった家がたくさんありました。長期間ずっと避難所で生活している子ども達に何か夏休みらしいことをしてもらえればと、スイカ割りをしました。「今年初めてのスイカです」、「美味しくて20切れも食べました」など、皆様に喜んでいただきました。最後に、1日も早い復興を願い各避難所のリーダーにメッセージを書いたサインをお渡ししました。

翌16日には、総社市の被災地を訪問しました。まず、アルミ工場爆発と洪水の被害があった下原地区へ。かき氷を被災者の皆様と一緒に食べ交流しました。その後、社会福祉協議会の佐野事務局長に、被災からこれまでの状況をお聞きしました。午後からは、昭和公民館へ移動し、子ども達とスイカ割りをしました。最後に避難所のリーダーにメッセージをお渡ししました。

チャリティーリレーマラソン in そうじゃ

9月17日、総社北公園陸上競技場において、総社市・同市教委の運営、HGの協力で、西日本豪雨災害復興支援イベントとして開催されました。計57チーム279人が参加し、ファミリー30分、一般チーム1時間でたすきをつなぎました。単にトラックの周回数で競うのではなく、途中のパン食い競走や飲料水についている合計得点で順位が決まるユニークなリレーマラソンでした。ハート・オブ・ゴールドは”animo club”として出場し、有森代表もチームの一員として走りました。豪雨被害を受けた同市下原地区からも2チームが出場。総社市消防署隊員の参加もありました。大会参加費は、災害復興支援金として使われます。

災害支援活動報告

日本警察消防スポーツ連盟事務局長/HG理事　　**志澤　公一**

水害で様々な財産や大切な物が汚泥・汚水に浸かってしまった場合、なるべく早い段階で引き上げ、洗浄など適切な処置を講じる必要がありますが、倒壊家屋やガレキの中に入り、そうした作業をすることは一般の方では難しいことも多く、また立ち入り禁止となった場所には家主であっても入ることはできません。そのような現場で財産の掘り起こし作業をボランティアで行うこと、これが日本警察消防スポーツ連盟の「財産保護活動」です。

今回の西日本豪雨災害は、被災地域が広範囲で複数の府県に及んだことから、隣接した自治体も自らが被災しているため多くの隊員を派遣できず、近隣の公的な緊急部隊が容易に支援活動を展開できない中、日本警察消防スポーツ連盟の活動をサポートするために、協働団体であるハート・オブ・ゴールドが、岡山県内被災地の行政及びボランティアセンターや関係するNPO団体・組織と連絡をとり、調整や情報提供をしてきました。また、避難所の子ども達と楽しく遊ぶ「子どものケア・プロジェクト」も実施しました。

当連盟の「財産保護活動」は、平成30年7月11日から10月15日までに計39件を実施。具体的には、総社市下原地区でアルミ工場爆発に伴う爆風の被害により破壊された家屋から農機具の取り出し、穴の空いた屋根や壊れた窓ガラスへのブルーシート張り工法と台風対策。真備町では主に、汚泥に埋もれた財産・貴重品の掘り出し、そして浸水した家屋の躯体保護作業等々、時間の経過と共に目まぐるしく変化するニーズに全力で対応してきました。

被災された方々からのお礼の言葉や笑顔から、私たち自身が活動の成果を実感しています。災害支援に限らず、今後も、「できる人が、できることを、できるかぎり」、社会貢献活動を継続して参ります